



宮本益光

モーツァルトの楽しみ

インタビュー

2018.11.21（日）にコロネットにてオペラリサイタルを開催する宮本益光さんにインタビューを行いました。

●音楽を始めたきっかけを教えてください。

小学4年生のときに学校に鼓笛隊ができて、入隊したのがきっかけです。背が高かったので、手が届くだろうとトロンボーンに選ばれました。元々譜面すら読めないし、音楽に興味はなかったのですが、トロンボーンは人数が少なかったので少数精鋭みたいに感じてやる気が出ました（笑）

鼓笛隊を作った先生が、いわゆる「赴任して来たらその学校は音楽が盛んになる」先生で、小学校の後半にその方と一緒にできたのはすごく大きかったですね。卒業アルバムに6年生のほとんどの生徒が音楽関係の仕事に就きたいと書くほど、人に影響を与える人物でした。私もその先生の魅力にハマってしまっただけで、その方がやっていることに身を置くことで自分の将来像を投影していたところがありました。ああいう人間になりたいな、と。そこから音楽の教員を目指し始めました。

●トロンボーンから歌にいった経緯は？

中学校の3年間は、吹奏楽部で引き続きトロンボーンをやっていました。高校進学の際に音楽の教員になるには、と考え始め、自分の専門を何かひとつ専攻する必要があることがわかりました。最初はトロンボーンでいいと思いますでしたが、音楽の教員になったら、歌を教える機会が出てくる。当時自分は歌が大嫌いでした。運動部がグラウンドを取り合うように、自分の学校は吹奏楽部と合唱部が、ピアノストや先生を取り合ったりとか、そういった対立構図があっ

たんですね。4パートほどしかないものを合わせて何が楽しいんだろとか、吹奏楽が好きなので逆にわざと歌のことを批判していたんです。嫌いなものがある状態では教員になれない。ですが、歌を学べば歌も楽器も満遍なく教えられる教員になれる。なので高校では、克服という意味で歌という選択をしました。

●教員から歌い手になるというように意思が変わったのは、高校3年間で何か変化があったということですか？

大学の博士課程まで教員になる意思は持ち続けていました。高校で変わったことといえば、東京藝術大学を受けることを決めたことですね。最初は地元の大学を受ける予定でした。ですが、自分は最下位だった2年のときに参加したコンクールで1位を取った人が、東京藝術大学に進学したと聞きました。なんじゃこの学校はと思い、先生に聞くと、それは日本で一番有名で一番難しい音楽大学だと思われ、どうせなら一番の教育を受けて教員になりたいので、負けん気もあり、志望校を変更しました。

●博士課程までいっても変わらなかったその意思是、まだ持ち続けていますか？

まだ持っていますね。今日もこれから子どもの合唱団の指導に行きます。形は変わってしまっていますが、教員になるのと今と、こんなに楽しい世界があるのだと子どもたちに教えていくという面では、そんなに差はないですね。

●影響を受けた音楽家の方はいらっしゃいますか？

…いないですね。いやもちろんカッコいいなと思う歌手の方はいりますが、追い続けている方はいないです。自分の音楽の根底になるのは、音楽の世界を教えていることが、そのまま演出になったりとか。

影響を受けたというほどではないですが、二期会に入会する際に所属している方を調べたら、立川澄人さんという方がいました。子どもの頃に、テレビの音楽番組の審査員で出ていた方です。あ、あの天才歌手だったんだ！と驚きました。ああやってテレビに出て、なおかつプロとしても素晴らしいという活動をされていらっしゃる本物であるという活動が素晴らしい。なので立川さんみただと年配の方に言われると、すごく嬉しくなりますね。ちょっとした憧れです。





●今回はオールモーツァルトというプログラムですが、ずばりモーツァルトの魅力とは？

モーツァルトほど国境のない作曲家はいないと思うんですよ。どの曲を聞いてもモーツァルトだと分かるんです。オペラをやるといふか、モーツァルトという確立されたジャンルをやるイメージですね。今回のプログラムの後半の一部分は日本語でやりますが、モーツァルトは日本語でやっても許されるかなというくらい、懐が深いというか安心感があるというか。表情は千差万別なのに、誰がやってもモーツァルトなんですよね。

●モーツァルトのオペラの中でお気に入りのキャラクターは？

これは、ドン・ジョヴァンニ（オペラ…ドン・ジョヴァンニ）と言った方がいんだらうけど…（笑）フィガロとかアルマヴィーヴァ（オペラ…フィガロの結婚）とか、カッコ良いつもりで演じてても逆に笑えるとか、アクティブな動きをし、涙もあり笑いもあるグリエルモ（オペラ…コジ・ファン・トゥッテ）あたりは、演じていてすごくやりがいを感じますし、パパゲーノで飛び回るのも好きですし、ドン・ジョヴァンニとしてカッコいいと思われるようにするのも好きで…一番と言われると…ドン・ジョヴァンニとパパゲーノという両極のキャラクターがいて、どちらかやれる人はいても、どちらもやれる人はあまりいない。ですから私は両方過不足無くやれるようになりたいんですよね。

●モーツァルトのオペラの中でお気に入りの場面はありますか？

ドン・ジョヴァンニの地獄落ちのシーン。2065人もの女性の手を取ってきた男が、最期に女性以上の存在の騎士長に手を出せと言われる。ドン・ジョヴァンニはすごく興奮したと思うんです。その役にちゃんとハマったとき、今だったら鉄砲の弾も避けられるくらいなトランス状態に入るんですよ（笑）そんな状態になるオペラなんて、なかなか出会えないですね。

●今回は何か趣向を凝らした演出は考えていらっしゃいますか？

魔笛に関しては、パパゲーノとパパゲーナの物語に特化してミニオペラみたいにしようかなと思っています。二重奏はお芝居もつけて、たくさんおしゃべりさせてもらおうかと。衣装も用意するつもりです。それぞれのキャラクターの演じ分けを、視覚的にも見せられたらと思っています。

●共演者について伺います。宮本さんから見て三宅さんはどういう方ですか？

うるさいことをなにも言わない、自由にやらせてもらえる。幅があるというか、懐が深いというか。能力の高い人だと思います。声質もモーツァルトにすごく向いています。共演者については、歌ってなくても絵になるところも見ていて、そういったところで選んでいるというのがありますね（笑）

●公演を楽しみにしている岡崎のお客様へメッセージをお願いします

音楽家をやっていなかったら、恐らく岡崎に行くことはなかったです。それを、求められて岡崎へ行くという機会ができ、出会いの連鎖が生まれているということに、すごく幸せを感じています。そしてまた、岡崎の方に少しでも喜んでいただけると、喜びが倍増します。自分のライフワークの主軸となっているモーツァルトでもって、皆様とお会いできるということは、非常に幸せで、ありがたく思っています。皆様、お待ちしております。

宮本益光 モーツァルトの楽しみ

2018.1.21[日] [14:30開場] チケット全席指定 一般 4,000 円
[15:00開演] {25歳以下} 学生 2,000 円



※未就学児の入場はご遠慮ください。 ※公演内容・曲目については一部変更になる場合がございます。ご了承ください。 プログラム詳細はホームページをご覧ください。
※車椅子での鑑賞をご希望の方は、お問い合わせください。 ※ご来場の際は、公共交通機関をご利用いただきますようお願い申し上げます。

主催：岡崎市／岡崎市シビックセンター指定管理者 SPS・トーエネック・ピーアンドピー共同事業体

お問合せ：岡崎市シビックセンター 〒444-0813 岡崎市羽根町字貴登野 15 番地／TEL (0564) 72-5111 / FAX (0564) 72-5110 / <http://www.civio.okazaki.aichi.jp/>